菊水楼蔵　森川杜園作
木造『鹿』修復報告書

平成29年7月6日

巧匠堂

菊水楼蔵　　森川杜園作 木造『鹿』修復報告書

2017 年 7 月 6 日

委　　託　　者　：　菊水楼　（〒 630-8301 奈良県奈良市高畑町 1130）
作　　　　者　：　（彫刻）　森川杜園　　（彩色）　中條良園
修 復 責 任 者　：　吉水快聞
施　　工　　者　：　吉水快聞　鈴木冬覺　畑景子
修　復　期　間　：　平成 29 年 6 月 26 日～平成 29 年 7 月 6 日
目　　　　的　：　現状維持を基本とした尊容回復
内　　　　容　：　折れた角の接合、角のほぞ穴の充填、欠失部の補作、
　　本体虫食い跡及び干割れの充填・補彩

【保存状態】
像底の銘より江戸末期･明治期［1820 ～ 1894］の彫刻家「森川杜園」作の木造の鹿である。
両角が折れてしまっている状態で別保存さてていた。角の接合部の本体側のほぞ穴が緩く、付け根部分の欠失等も伴って角が非常に不安定である。
鼻先は虫食いにより大きく欠失している。また、首部分と、左体側面に大きな干割れがみられる。

【修理方針】
◇割れた角の接合、割れに伴う彩色剥落部の補彩
◇角付け根と本体側ほぞ穴の充填及び調節
◇本体側の角付け根の欠失部分の補作・古色付け
◇目立つ干割れの充填・補彩

修復前写真（本体）

像底の作者銘

修復前写真（角）

【角】

①　接合

割れた各部材を酢酸ビニル樹脂を用いて接着し、糸を用いて固定。

②　補彩（古色）

割れに伴う剥落部分の各所を白土で下地を作りアクリル絵の具を用いて違和感のないように補彩し古色付け。

修復後

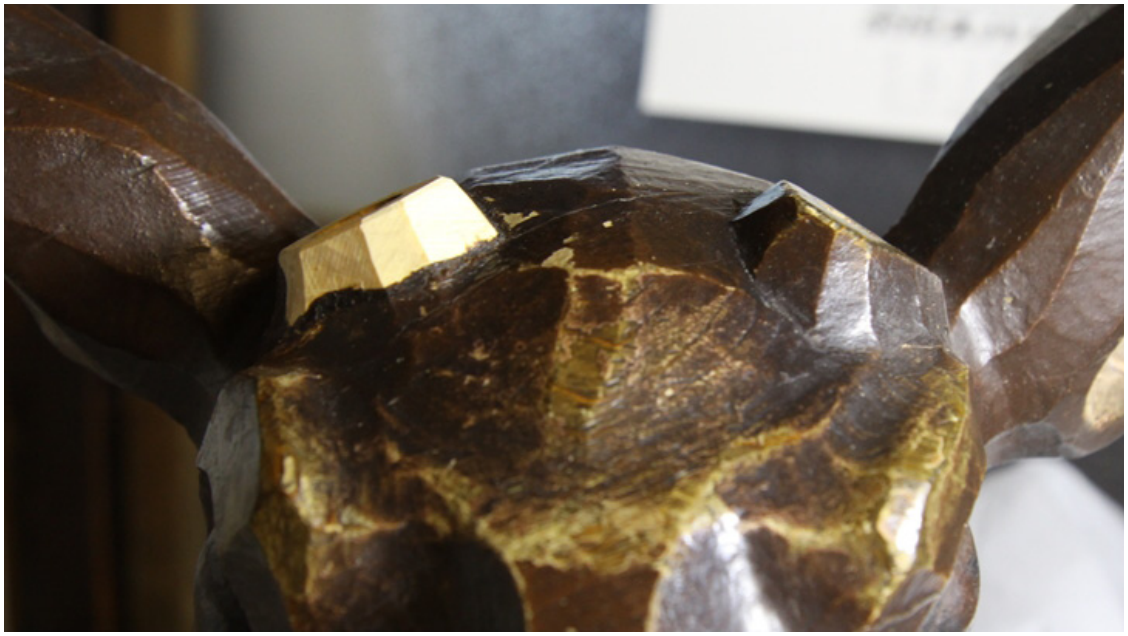
【本体　角付け根部分】

①　右角付け根部分の後補部材及び釘の除去

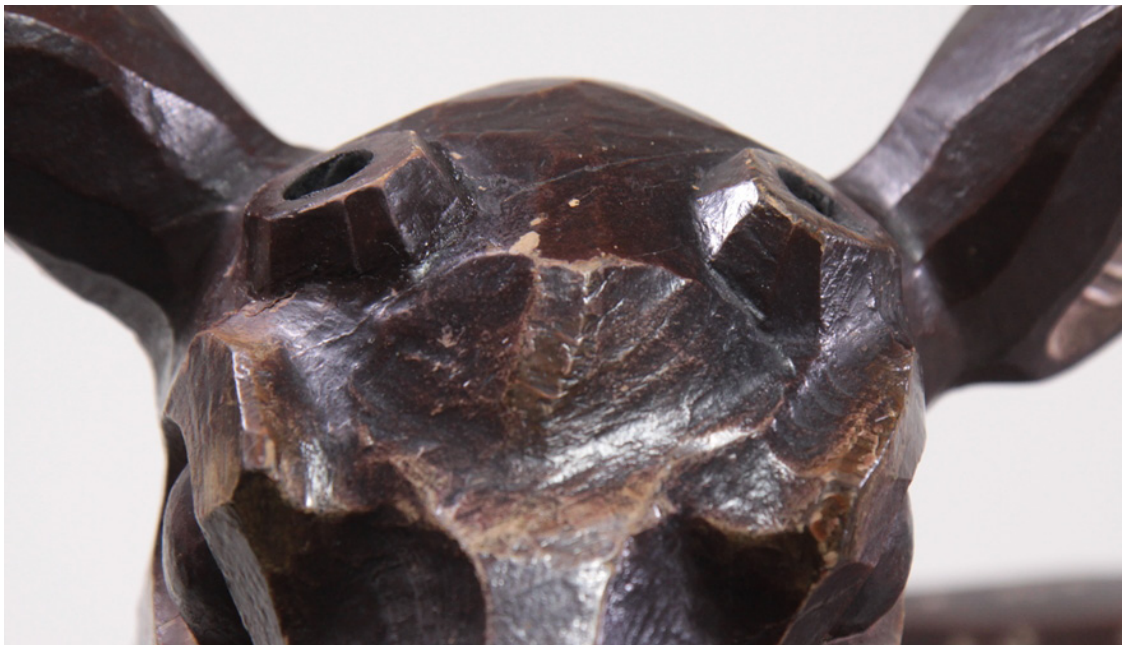
修復前

青矢印部分の後世の修理とみられる真鍮釘とその時の補作とみられる部材は形状が合わないため除去。

② 欠失した部材を新補



ヒノキを用いて欠失した部材を新補し、隙間を木屎漆を用いて充填。



修復後

アクリル絵の具を用いて違和感のないように古色付け。

③　角のほぞ穴の調整

修復前

後世に緩んだほぞ穴を埋めるために油粘土のようなものやテープが詰めてあったので除去。

修復後

木屑を混ぜたエポキシ樹脂で充填し、表面を錆漆を用いてコーティング。

④　鼻先の虫食い跡の充填

木屎漆を用いて充填し、アクリル絵の具を用いて違和感のないように古色付け。

修復後

⑤　首の大きな干割れの充填

木屎漆を用いて充填し、アクリル絵の具を用いて違和感のないように古色付け。

修復前

修復後

⑥　左体側面の大きな干割れの充填

首と同様に木屎漆を用いて充填し、アクリル絵の具を用いて違和感のないように古色付け。

修復前

修復後

修復後写真